

行田税務署管内納税貯蓄組合連合会長賞 金賞

## 普段の暮らしを幸せに

行田市立太田中学校

一年 小泉 凜佳

私は見ました。大震災の時の異様な町の光景を。

その時私は、まだ幼稚園に通っていた。「税」なんて言葉は、聞いた事もないし、もちろん知らなかった。十円のお菓子は、十円で買える。

震災後の空気はひんやり、なんだか暗くてどんよりしていた。テレビはつくけれど、ずっと同じCMばかり。外を見ると、楽しそうだった町も、人の声すら聞こえていない。東北の方なんか、道が割れていた。「誰が、直すの。ずっと直らないの。」心配だった。費用は自分一人では払えないし。その時の自分は全く知らなかった。復旧だって税で支えられているという事が。

「えっ、なんで！」消費税が八%に上がったのだ。十円のお菓子も、十一円になってしまった。何も知らずに、「消費税なんかいらぬのに。」と私は思っていた。

昨年六年生の時、税について学ぶ時間があった。みんな、税について触れ、学んだ。私は、全く興味が無く、聞く耳を持たなかったのだ。だけど、この一言だけ唯一耳の奥まで入った。

「なぜ教科書は無料でもらえるのでしょうか。」と先生が言った。みんなはおそらく気付いていたと思うけど、私は気付かなか

かった。

「それは、みんなからの税金で支給されているんですよ。」知らなかった。この教科書も、あの教科書も、知らない人が払ってくれてるなんて。税金は、ごみの処理、公園など、私の生活に欠かせないものばかりだ。税金、大切なのかも初めて思った。

昨年、夏休みに福島県と宮城県に行った。震災後の様子を見たかった。今はたくさん緑が見えだし、道はすごくきれいになっていた。思い出した。ふと声に出した。

「税金だ……」

外の景色を見ると、人々はみんな笑顔だった。

一度買い物に行った。値段のところには、（ ）がついている値段が小さく書いてある。ありがとうって自然に思えた。一ヶ月前までは、税なんていらぬ、そう思ってたのに。

十月からは消費税は十%に引き上げられる。それでも、かわない。人々が笑顔になれるのなら。

中学生になって、本当に税は大切だなと思う。色々な税がある。それらは全て、人々が幸せになるためのものだ。